

エイズ孤児支援NGO・PLAS 事業・決算報告書

2010年度

2010年4月1日—2011年3月31日



Our Mission

HIV/エイズによって影響を受ける子どもたちが笑顔でいられる社会を実現する。

Our Vision

プラスはこのビジョンを実現する為に、

1. エイズ孤児の保護・サポート
2. エイズ孤児が生まれる悪循環を断ち切る
3. エイズ孤児について知らせるこの3つを柱に活動します。

Contents

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1 Our Vision
Our Mission | 5 国内事業 世界エイズ孤児デー
キャンペーン |
| 2 海外事業 ケニア | 6 国内事業 世界エイズデーキャン
ペーン |
| 3 海外事業 ウガンダ | 助成金実績
主なメディア掲載 |
| 4 海外事業 ワークキャンプ | 7 会計 |

KENYA

ニャンザ州ウゲニャ県ウクワラ郡

地域概要

この地域はケニア共和国で最もHIV感染率が高いニャンザ州に位置しており、HIV感染者数がケニア共和国全体で約8.3%であるの
に比べ、この地域のHIV感染率は2002年の
時点で38.4%です。住民の多くが農業に従
事しており、住民の約6割が絶対的貧困層と
言われています。



HIV / AIDS

エイズ啓発・母子感染予防事業

この地域では、妊産婦やその家族が病院へ行くことを拒んだり、HIV検査を受けること
自体が差別の対象となったりするなど、社会的な側面から、母子感染予防プログラムを
受けることができない女性が多く存在します。
また、およそ2人に1人の妊産婦が、病院に来て初めて母子感染について知るとい
う現状があり、母子感染自体を知らない人が多いことも指摘されています。
妊産婦やその家族が、母子感染予防について事前に知り、病院へ行くことの重要性を
感じることが必要とされています。



母子感染予防を地域でリードする リーダーを育成する

2009年1月より、地域のリーダーに対して、
母子感染予防についての研修を行い、彼ら
の地域での啓発活動を支援しています。
研修を受けた後、リーダーたちはモブライ
ザーと呼ばれ、各区でグループを作り、月
に2~4回程度の母子感染予防啓発事業を
行っています。
2010年度は8名のモブライザーが72回に
渡って活動し、精力的に啓発活動を続けて
います。昨年1年間で啓発活動に参加した
地域住民は4362名にのぼり、平均して1回
あたり60名ほどの地域住民が参加をして
います。定期的にフォローアップの研修や情
報交換の場を作り、モブライザーたちが活
動を続けられるよう継続した研修を提供し、
また啓発活動のモニタリングを行い、啓発
の質を高められるよう、活動へのアドバイス
も行っています。

母子感染を防ぐ重要性

現在世界では、210万人の15歳以下の子どもがHIVと
ともに生きています。
そのほとんどが、お母さんからの感染です。
そして、母子感染した子どもの50%は2歳になる前にな
くなってしまいます。
しかし、母子感染は、適切な処置とケアを行うことで、
その感染率を、3%以下に抑えることができます。現在、
その適切な処置とケアを受けられるのは、HIVに感染し
ている妊産婦の10%以下なのです。



UGANDA

ルウェロ県ガルウェロ地区

地域概要

ウガンダ共和国ルウェロ県ガルウェロ地区は1980年代に国内の混乱の中で、多くの住民が同じウガンダ人により虐殺され、財産や家畜を奪われ、子どもが少年兵や性的搾取の対象として拉致されたという悲惨な経験をしている地域です。20数年経過した今も、エイズ孤児を含む孤児が多くいます。



Construction

学校教室建設

エイズ孤児たちが教育を受けられない状況をどうにか改善しようと、有志の地元住民によって2007年に開設されたBasajjansolo Memorial Training Centre小学校（以下BMTC小学校）の学校教室建設支援を行いました。2008年から2009年にかけて3つの教室を建設し、2010年度はさらに1つの新規教室建設を行い、子どもたちが安心して初等教育を受けられる環境を整えました。2008年の支援開始当時は50名程度であった生徒は、2010年には250名に増え、多くの生徒が学んでいます。



今後の支援

2011年から2012年にかけて、さらに1教室を建設し、7年生までの学校教室が完成する予定です。また、建設活動に付随して、学校で行われるエイズ教育の充実への協力などを通じて、HIV/エイズに関する正しい知識を広め、人々のHIV新規感染を予防し、HIV/エイズやエイズ孤児への差別解消をはかることで、エイズ孤児の根本的な問題であるHIV/エイズの問題にも歯止めをかけることができるよう取り組みます。

学校の今後

現在は幼稚園及び小学校のみで構成されていますが、卒業後、自立した生活を生徒が営んでいけるよう、小学校高学年から職業訓練を学校のカリキュラムに組み込み、卒業後に中等教育に進むことができなくても、職を得たり、自分たちで職を創出したりできるよう、将来的には職業訓練所を併設することを検討しています。この職業訓練所については、プラスが今後支援を行うかどうかは未定です。



HIV / AIDS

エイズ啓発事業

学校保護者や地域住民にHIV/エイズやエイズ孤児に対する理解を深めてもらうことを目的とし、2010年夏にはBMTC小学校の子どもたちが学芸会にてHIV/エイズ啓発を盛り込んだ寸劇を上演しました。



WORKCAMP

ウガンダでワークキャンプを実施

【ワークキャンプ概要】

アフリカの現地で、2週間から3週間の合宿型ボランティアプログラムです。日本からのボランティアとアフリカ現地からのボランティアを受け入れています。ボランティアはプラスの事業地で建設作業、エイズ啓発の広報活動などに従事します。



Uganda 夏



2010年8月14日－28日、9月2日－16日の2つの日程でそれぞれ15日間、ウガンダ共和国のルウェロ県の Basajansolo Memorial Training Centre (以下BMTC)でワークキャンプが開催されました。A日程では日本人13名とウガンダ人6名、B日程では日本人13名、ウガンダ人5名が参加し、同地での開催は5回目となりました。

今回のワークキャンプでは、BMTCの新規教室建設を行いました。

A日程では教室の壁を作り上げ、B日程では床や梁の上にレンガを敷き詰め、完成に近づくことができました。

また、期間中に行われた学芸会では、日本人とウガンダ人ボランティアがソーラン節を踊ったり(A日程)、日本人ボランティアが男女ともにAKB48のダンスを披露したり(B日程)と、学芸会を盛り上げました。

さらに、HIV陽性者支援を行っている現地団体や、地域の家庭への訪問も行われました。



Voice

参加の声

「子どもたちの笑顔が好き」、「アフリカに行ってみたい」、「エイズ問題に関心がある」。参加者の目的や想いは様々でしたが、時には辛くて涙を流したり、大笑いをしたり、地域の問題を目の前に自問自答したりと、一人一人にとって大きな意味を持つ15日間だったと思います。このキャンプを経てそれぞれが得たものや、感じたことが肥やしとなり、今後に繋がれば幸いです。今回はルウェロ地区で行われた4回目のキャンプとなりました。ひとりの力は小さくても力を合わせ、積み重ねることで、大きな変化を生むことができると信じています。最後に、本事業にあたり、多くの方からのご支援、ご協力を承ったことを心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

(A日程 キャンプリーダー 足立真希)



世界エイズ孤児デーキャンペーン

5月7日の世界エイズ孤児デーに合わせて
エイズ孤児を知ってもらい、支援につなげるための
啓発キャンペーン

【キャンペーン概要】

本年が4年目となった世界エイズ孤児デー
キャンペーンは、「こどもたちのえがおに、未来を。」
をキャッチコピーに、チャリティーパーティー、
イベント、twitterでのキャンペーン、チャリティオー
クションなどを行いました。



twitter

ツイッターキャンペーン「1 tweet, 1 SMILE」
サッカーW杯南アフリカ大会にあわせて、1人でも多くの
人へエイズ孤児の存在を知ってほしいとの思いをこめて、
ツイッターにエイズ孤児やアフリカについてのつぶやきを
毎日発信しました。1日に世界で増えるエイズ孤児と同じ
数でもある、6000件のメッセージをW杯開催中に集めるこ
とを目標にしました。



キャンペーンへの参加を表明するハッシュタグ、「#May7」
をつけて投稿されたツイートを1週間で6567件集めることが
できました。キャンペーンがきっかけで、寄付や応援メッ
セージを下された方など、参加者とのつながりも生まれました。
また、キャンペーン終了後には都内のラウンジにてツ
イッターへ寄せられたメッセージを写真とともに展示し、多く
の方にお越しいただきました。



Event



連続ミニイベント「Talk & Action」

エイズ孤児や国際協力をテーマに全5回を開催。当会理
事・現地駐在員・谷澤明日香や、日本に留学中のエイズ孤
児をスピーカーに迎え、国際協力の仕事について参加者と
意見交換を行ったり、エイズ孤児が直面する現実や「わたし
たちにできることは何か」を考えたりしました。計45名が参
加し、そのうち92%が「今後もエイズ孤児について知りた
い」と答えてくれました。

Party

世界エイズ孤児デー チャリティーパーティー

5月7日に、恵比寿「SPAZIO」にてチャリティーパーティーを
開催しました。支援者や協力企業の方など110名にご参加
いただきました。

ゲストスピーカーの一人、エイズ孤児のナブケンヤ・リタさん
(あしなが育英会留学生)からのメッセージ、「誰かのために
何かをしてください。それがその人の人生を変えます」は、
多くの人の心を動かし、大きな反響を呼びました。

また、会場ではウガンダの伝統衣装「ゴメス」の試着や、
Ustreamによる中継「わたしのアクション」で参加者へのイン
タビューを行いました。



世界エイズデー 2010 「子どもたちのえがおに、未来を。」

12月1日の世界エイズデーに合わせた
啓発キャンペーン

【キャンペーン概要】

当会の設立5周年を祝うチャリティーパーティーの開催、5周年特別映像の作成、著名人のご協力のもとチャリティーオークションの実施などを行いました。



Event



世界エイズデー チャリティーパーティー

2011年12月18日、表参道にてチャリティーパーティーを開催。様々な分野から105名の方にご参加いただき、グラスを片手に楽しいひとときを過ごしました。また、代表・門田が自身の原体験を語り、エイズ孤児支援へ注ぐ情熱や想いをこめたスピーチは多くの方から反響をいただきました。

Auction

11月30日～12月21日にオークションを実施し、多くの著名人の方々に私物やサイン入りオリジナルグッズ、サイン入りボンマグネット等をご提供いただき、564,342円の寄付が集まりました。

Products



株式会社 M'sDS様が当会オリジナルリボンマグネットを作成、販売。オークションにも活用させて頂きました。

助成金・ 企業寄付 実績

- ・ラッシュジャパン様「チャリティーポットプログラム助成」より、200万円の助成
- ・ゲンゼ株式会社様「ゲンゼラブアース倶楽部」より、10万円のご寄付

主なメディア 掲載

○ラジオ

・FMJ-wave「JAM THE WORLD」に当会代表理事の門田・ボランティア運営スタッフの川嶋が出演。

○書籍

・新刊「ミスキャンパスpresents 世界を変える仕事44 NPO・NGO・社会起業家ガイドブック」に当会の活動が紹介されました。

○ネットメディア

・『APP BANK』、『チャリティニュース』他多数に当会のiPhoneアプリ「チャリティックロック」が紹介されました。

科目	金額		
(経常収支の部)			
I 経常収入の部			
1 会費収入	252,000		
2 事業収入	3,773,898		
(1)啓発事業収入		1,533,898	
(2)ボランティア派遣事業収入		2,240,000	
3 助成金等収入	2,000,000		
民間助成金収入		2,000,000	
委託事業収入		-	
4 寄付金収入	3,326,937		
5 その他収入	1,334		
利息収入		1,334	
6 その他の事業会計からの繰入			
経常収入合計	9,354,169		
II 経常支出の部			
1 事業費			
(1)ケニア事業費	4,169,229		
(2)ウガンダ事業費	1,226,567		
(3)国内事業費	1,781,305		
2 管理費	2,062,882		
(1)役員報酬		-	
(2)給料手当		1,071,556	
(3)什器備品費		-	
(4)光熱水費		-	
(5)家賃		332,000	
(6)消耗品費		75,296	
(7)通信運搬費		91,739	
(8)印刷製本費		200,390	
(9)交通費		147,420	
(10)会場費		480,000	
(11)人材育成費		39,000	
(12)雑費		147,420	
(13)手数料		54,633	
経常支出合計	9,239,983		
当期収支差額	114,186		
前期繰越収支差額	6,635,285		
次期繰越収支差額	6,749,471		

エイズ孤児支援NGO・PLAS

〒141-0021 東京都品川区上大崎3-14-58クリエイト目黒2A

TEL/FAX 050-3627-0271 info@plas-aids.org

www.plas-aids.org/